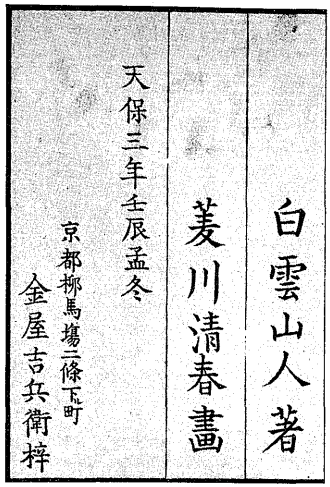
主筆　牧野富太郎
植物研究雜誌　第八巻　第二號（通巻第七十二號）
昭和七年（1932）二月二十五日
東京　津村研究所出版部　發行

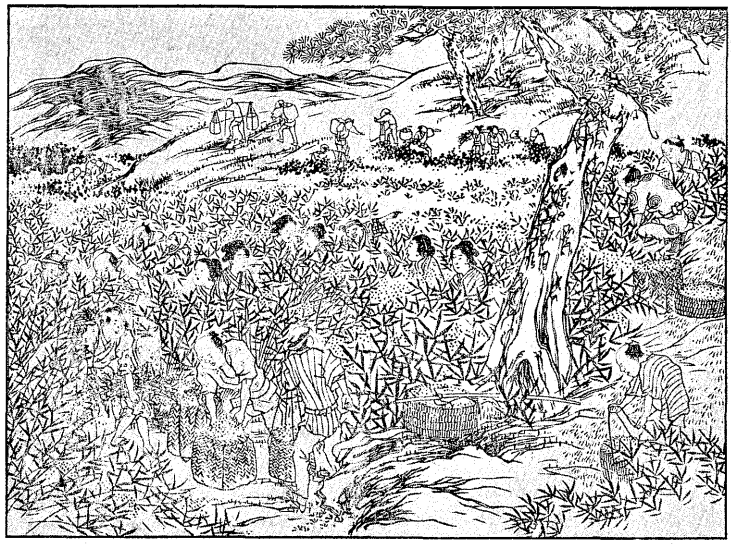
○白雲山人ノ著『竹實記』ニ就テノ記

牧野富太郎

今日、內外本草書類等ノ文獻ニ就テ本邦第一ノ權威者ト誰レモガ許ス理學博士白井光太郎君ノ言ハルヽニハ白雲山人ノ著『竹實記』ハ往々嘉永三年ニ出版ニナッタ樣ニ其奥附ケニアレドモ實ハ其レハ天保三年トアルモノガ本當デ其レガ其元版デアル、右ノ嘉永三年トアル本デハ後ノ人ガ書中數ケ處ノ文章ヲ擅マヽニ改竄シテヰルトテ一々其異ッタ個處ヲ寫シ取テ惠マレタ事ガアッタ、此書元版ノ天保三年ノ方ハ京都柳馬場二條下ル町金屋吉兵衞梓デ梓行シタモノデアルガ多分其後其版木ヲ此發行元カラ買ヒ取ッタカ若クハ讓リ受ケタカシタモノデアラウ上ノ嘉永三年版ニハ更ニ京寺町通御池上ル町鉾屋安兵衞梓ト加ヘ署シテアル、卽チ今能ク之シ返見ノ版元年三保天

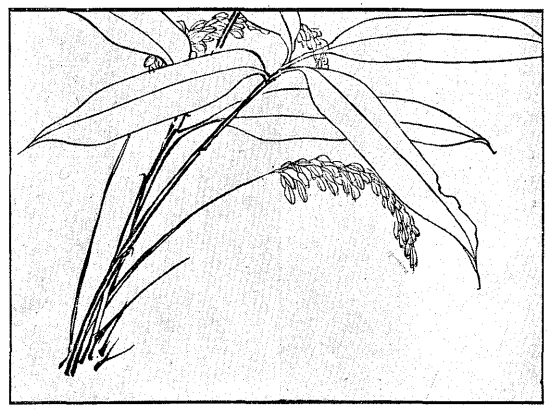


ケ附奥ヽ同



狀ノルスル收採ヲ實ノヽさ民村、一ノ畫插中書

レヲ吟味シテ見ルト其嘉永版ハ天保版々木ノ再刷デアッテ且數ケ處其文中ノ文字ヲ勝手ニ取リ換ヘタモノデアル從來カラ私ノ手許ニ所藏シテヰタモノハ右ノ嘉永三年ト奥附ケノアル方デアッタノデ私ハ其天保三年ニ發行ニナッタ元版ノモノガ欲シイト思ッテヰタ矢先キ幸ニモ先日ヤット東京市神田區通神保町ノ大屋書房デ之レヲ見付ケ大枚金七圓ヲ奮發シテ購ヒ來リ爲メニ我ガ書架ニ其新舊ノ兩冊ヲ備フルニ至リ漸ク此ニ其慾望ヲ達スルヲ得テ頗ル滿足シテヰル次第デアル



狀ルセ實結ノヽさ、一ノ畫插中書

其處デ早速ニ此二ツノ書ヲ兩々引合セ見

比ベタ處其版木ハ其前述ノ樣ニ共ニ同一デアルガ其違ッタ處ハ書中文章ノ數ケ處ヲ刪リ去ッテ其處ヘ原文ト異ッタ字ヲ嵌メ込ンダモノデアル、何ノ必要ガアッテ此樣ニ原本ト其事實ヲ相違サセタカ今其邊ノ事情ハ分ラナイガつまらん事ヲシタモノダト思フ、ガ、然シ又飜ッテ思フニ嘉永三年ニ畿內邊ノ山々ニ會マさゝノ結實シタ事ガアッテ其レガ宛カモ天保三年ニ飛驒ノ高山邊ニ起ッタ結實事相ト同樣デアッタノデ是レ幸ヒト忽チ其版木ヲ生カサン商人ノ機智ヲ發揮シ久シク寢テヰタ其書ヲ當時ノ現象ニ卽セシメテ起コシ以テ賣ラントシ拙コソ文中ノ數ケ處ヲ其時ノ事相ニ合致スル樣ニ都合ヨク書キ換ヘタモノデアラウトモ考ヘサセラルヽ、ツマリ過去ノ死ンダ版木ヘ現在ノ活ヲ入レテ生シタ譯ダ

今其兩書ノ文章ノ異ッタ處ヲ遺リナク對照シテ列擧スレバ次ノ通リデアル

○第一葉、表

第二行
（天保版……飛彈の國は山多き地にして其山々は都て
（嘉永版……五畿內の國は山多き地にして其山々は都て

第五行
（天保版……今茲壬辰春の末つかたより國の中央なる高
（嘉永版……今茲庚戌春の末つかたより國の中央なる山

第六行
（天保版……山の府の邊十里許の間山々の箬竹一根より
（嘉永版……城大和の邊十里許の間山々の箬竹一根より

○同、裏

第六行
（天保版……に劣らぬ佳味なり於是村々及高山の人々も
（嘉永版……に劣らぬ佳味なり於是村々及近鄕の人々も

○第二葉、表

〔牧野云フ〕壬辰ハ天保三年デアル
〔牧野云フ〕庚戌ハ嘉永三年デアル

第四行（天保版……各其分に應して取貯ふ故に高山の近郷十
（嘉永版……各其分に應して取貯ふ故に村〳〵近郷十

文章中違ッタ個處ハ右ノ通リ兩者ヲ比較シテ列記シタ五行ニノミ存スル、見ラルヽ如ク其レハ極メテ僅カナ違ヒデアル、故ニ若シ嘉永版ノミヲ藏セラルヽ方ハ右ヲ見テ其違ッタ點ヲ記入スレバ別ニ天保版ノモノヲ持タナクテモ實用ニハ少シモ差支ヘナイノデアル

魚篠一ノ畫插中書

此小冊子ハ半紙本、水色表紙、中身紙數ハ十二枚ノ片々タルモノデアル、書中ニ三ツノ插畫ガアル、附錄トシテ篠魚ノ記事ガ加ヘテアルガ之レニ伴フ圖傍ニいいはなにはまだならずとも篠魚はさゝをすゝむるふしとなれトイフ一首ノ歌ガ副ヘテアル、卽チ篠魚ガ雨ヲ得テ谷水ニ落チ鰭ガ生ジテ遂ニいいはな（嘉魚）ニナルト云フ傳說ニ基イテノ歌デアル、此歌ノ末ニ荏野翁ト署シテアルガ今此歌ヲ他人ノデナク著者ノ詠ンダモノトシテ考フレバ飛驒ノ人ナル著者白雲山人ノ姓ハ蓋シ荏野卽チえのト謂ッタデアラウ、荏野翁ハマサカ「ニンヤヲウ」トカ「ジンヤヲウ」トカ云フ雅號デハナク荏野ノ翁ト云フ意デアラウト思フガ或ハ其住ンデ居ッタ地名カモ知レナイトモ考ヘラレナイデモナイ

表紙ノ題簽ハ天保版ノモノハ今日百年モ歲月ガ立ッテヰルカラ其色ハ疾クニ褪メテハヰルガ元ハ紅字デ刷ッタモノヽヤウデアル、然シ嘉永版ノモノハ世間並ノ墨字デアルカラ今モ尙ハッキリシテヰル

書名ノ『竹實記』ハさゝのみのきトふりがなガシテアルコト天保版ノ見

返シニ見ルガ如キデアル、此見返シモ今ハ褪色シテヰルガ當時青色ノ繪具デ刷ッタモノデアルコトガ看取セラルヽ、然シ此見返シハ私ノ所有セル嘉永版ノモノニハナイ

右天保三年版ノ私ノ藏本ニハ誰レノ書キ入レタモノ（多分伊賀國ノ邊ノ人デアラウト想像スル）カ判ラヌガ其欄外ニ左ノ記事ガアル、今參考ノ爲メ序ニ此處ニ轉載シテオク

天保七丙申ノ年春三月伊州柘植幷ニ阿波村ノ山々箬竹（クマサヽ）ミナ實ヲムスブ土人此ヲトリ食ス

嘉永三庚戌ノ年二月下旬伊陽ノ地千里竹（ネサヽ）皆紫黑色ノ穗ヲ生ズ（ヲマフニ伊陽ノ地ノ長ケ二寸許形三組絲（ミックミイト）ノゴトクマタイヨダケノ筍ニ似タリ四月其籾ゴトニ花ヲナス其形色トモニ稻ノ花ノ如シ實ヲムスブ其米稻麥ヨリ大ニシテ潔白其氣味寒冷也暴シ製シテ以テ之ヲ食セバ殆ド糧ヲ助クベシ

○蕾軒獨語（其四十三）

蕾軒　朝比奈泰彦

○きんぶちごけノ子器ニ就テ　On Apothecium of **Sticta aurata** Ach.

きんぶちごけ Sticta aurata Ach. ニ關シテハ本誌第五卷第一號（昭和三年一月）ニ一寸書タコトガアル通リ本邦内地產ノモノニ有子器ノモノハ見當ラナカッタノデアルガ最近二ケ所カラソレガ見附ケラレタコトハ記錄スル價値ガアルト思フ、其一ハ昭和六年八月ニ藤川福次郎君ガ土佐國野川デ採集シタモノニ立派ナ澤山ノ子器ガアッタノト本年一月ニ熊本縣球磨縣一部村デ前原勘次郎君ガ有子器體ノ地衣ヲ見附ケ送附サレタノトデアル

此地衣ノ子器ハ Hue (Lichenes Extraeuropaei, p. 52.) ノ記載スル通リ葉體ノ周圍ニ着生シ中凹ノ盃狀ヲナシ吾々ノ標本デハ徑三「ミリ」迄デアッタガ臺灣產ノモノデハ徑八「ミリ」ニ至ルモノモアル、殼ノ外面ハ短絨毛ヲ密布シ緣ハ波狀ヲ呈シ葉緣ト全ク同樣ニ綠黃色ノ粉芽ヲ附ケテ居ル、之ヲ縱斷スルト「エピテチウム」ハ黃褐色